2026年11月6日

各　　位

会　社　名　　ジオスター株式会社
代 表 者 名　代表取締役社長　堀田　穣
（コード番号　5282　東証スタンダード）
問 合 せ 先　管理本部企画・経理部長　石井　一史
（TEL 03-5844-1201）

2027年３月期第２四半期（中間期）業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

2026年５月15日に公表いたしました2027年３月期第２四半期（中間期）の業績予想と、本日公表の実績値に差異が生じましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

１．2027年３月期第２四半期（中間期）業績予想と実績値との差異（2026年４月１日～2026年９月30日）

①連結業績予想と実績値との差異

（金額単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	１株当たり中間純利益
前回発表予想（A）	10,600	0	0	820	26円77銭
今回実績値（B）	8,580	144	193	951	31円05銭
増減額（B－A）	△2,019	144	193	131	－
増減率（%）	△19.0	－	－	16.0	－
（ご参考）前年同期実績（2026年３月期 中間期）	12,580	632	655	434	13円89銭

②個別業績予想と実績値との差異

（金額単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	１株当たり中間純利益
前回発表予想（A）	10,600	0	0	970	31円66銭
今回実績値（B）	8,531	185	240	1,090	35円59銭
増減額（B－A）	△2,068	185	240	120	－
増減率（%）	△19.5	－	－	12.4	－
（ご参考）前年同期実績（2026年３月期 中間期）	12,515	614	640	421	13円48銭

２．差異の理由

連結業績につきましては、売上高はセグメント製品の期ずれ等により減少し、85億80百万円（対前回予想19.0%減）となりました。

一方、損益につきましては、減少した売上高の大宗を収益性の低いセグメント製品が占めており、損益への影響が限定的であったことに加え、過年度契約物件のコスト上昇に伴う販売価格改定が一部実現したことや費用計上の下期へのずれ込み等により、前回予想を上回る結果となりました。以上の結果、営業利益１億44百万円（前回予想は０百万円）、経常利益１億93百万円（前回予想は０百万円）、親会社株主に帰属する中間純利益９億51百万円（対前回予想16.0%増）となりました。

個別業績につきましても、連結と同様の理由により、売上高は85億31百万円（対前回予想19.5%減）、営業利益１億85百万円（前回予想は０百万円）、経常利益２億40百万円（前回予想は０百万円）、中間純利益10億90百万円（対前回予想12.4%増）となりました。

なお、通期の業績予想につきましては、セグメント製品市場が中期計画での見立て通り端境期を迎えている中、拡販を計画している土木製品においてもプロジェクトの遅延や他工法への変更等により、一層の収益改善努力を要する厳しい状況でありますが、年度目標数値の達成に向けて努めてまいります。従いまして、現時点においては予想値からの変更は行っておりません。今後、修正が必要となった場合には速やかに公表させていただきます。

以　上